

2019年7月9日

立教大学国際学術研究交流制度
2019年度「招へい研究員」報告書

1. 招へい概要

受入 教員	所属・職	経営学部・教授
	氏名	辻 洋右
受入学部・研究科・研究所		経営学部
招へい 研究員	所属・職	Associate Professor, Department of Kinesiology, College of Education, University of Georgia 所属機関所在国：米国
	氏名	Thomas A. Baker
招へい期間		2019年6月24日～2019年7月9日（16日間）
研究経費		533,700円

2. 滞在中の活動

来日日および離日日を含め、滞在中の活動を記入してください。全日程（毎日）記載する必要はありません。講演会やセミナーなどを開催した場合はタイトル、会場、参加者数等を記載してください。

活動内容記入例) ○○について研究討議、共同研究、講演、講義、大学院生への研究指導等

*「本学との学術協定（学部間・研究所等間を含む）の締結または既存協定の維持・強化に資する活動」を行った場合は、該当する活動内容に※を付してください。

年月日	活動内容
6月24日	来日
6月25日	経営学部海外招聘教員の研究発表会に参加
6月26日	研究セミナー「Examining the influence of the transliteration loophole on foreign athlete brand protection in China」 会場：12号館2階会議室 参加人数：12名（教員・大学院生）
7月4日	研究セミナー「Legitimate threat or overreaction: Addressing ambush marketing with an eye for Tokyo 2020.」 会場：10号館3階X301教室 参加人数：45名（学部生・大学院生）

7月9日	<p>研究セミナー「The future is now? Problems with branding professional esports players」</p> <p>会場：10号館3階X301教室</p> <p>参加人数：44名（学部生・大学院生）</p> <p>米国帰国</p>
------	--

3. 研究・交流状況および成果

上記に記載した活動について、具体的な研究・交流の内容および成果を、本学の学術研究、教育活動、国際交流の進展へ与える効果を含めて、記載してください。講演会やセミナーなどの参加者層（学生、大学院生、一般、教職員等）、会場の様子なども記載してください。

今回の招聘においては、Thomas Baker 研究員による研究セミナーを3回開催した。6月26日のセミナーでは「Examining the Influence of the Transliteration Loophole on Foreign Athlete Brand Protection In China」というタイトルで、中国におけるスポーツ選手名の商標登録に関する研究を紹介していただいた。中国では、海外スポーツ選手名（アルファベット表記）を漢字表記する際にその表記をスポーツ選手の承諾なしに商標登録されている件が多いという。特段、有名な選手ほどその対象になる確率が高く対応が必要であるという研究報告がなされた。ケーススタディー研究の紹介なども交えて報告され、大学院生と教員の間で活発な議論が行われた。

7月4日の第一部の研究セミナーでは学部生を対象に「Legitimate threat or overreaction: Addressing ambush marketing with an eye for Tokyo 2020.」という題名で東京オリンピックスポンサーとアンブッシュマーケティングの関係について研究の紹介とレクチャーが行われた。特に公式スポンサーの権利を守るための対策を中心に報告がなされた。東京五輪が来年に迫る中、学部生と大学院生には興味深く受け入れられた。

第二部の研究セミナーでは学部生を対象に「The future is now? Problems with branding professional esports players」という題名で、esports と伝統的なスポーツを対比させながら研究を報告された。とりわけ esports の興味深い点として、ゲームメーカーが定めた条件に従わないと参加できないことや性差による優劣があまりないということであった。また、ブランディングに関しての問題点も詳細に紹介され、質疑応答では学部生から英語で質問が多数出るなど活発に議論が行われた。

Baker 先生とは日米のスポーツビジネス・スポーツマーケティングの比較を行いながら今後の研究プロジェクトについて意見交換を行った。また、滞在中はマキムホールの研究室において研究が行われた。

< 6月26日と7月4日の発表の様子 >



(特記事項) 本学との学術協定(学部間・研究所等間を含む)の締結または既存協定の維持・強化に資する活動を行った場合は、下記にその内容を記載してください。